



生活者ネットワーク 国分寺市議会議員 TAKE FREE

マサーヨがゆく vol.7

日々の暮らしと政治はつながっています。これは、マサーヨこと小坂まさ代が、市政のことをより身近に感じていただけたらとの思いをこめて、仲間たちと作ったレポートです。ひとりひとりが自分らしく生きていける社会にしたいために、あなたの声を聞かせてください。



Instagramもぜひご覧ください @masayokosaka

国分寺発 地球冒険ミッション 冒険の書をつくろう！

Vol.1 天の書 宇宙の中の地球

天文学者フレア博士のおしゃべりワークショップ (萩野正興天文方)

- 2024/04/06 (土) 15:00 ~ 17:00 @にわには
- 参加費 おとな¥500 中学生以下¥300
- お名前、連絡先、参加人数(おとな〇名、子ども〇名)を添えてメール (kokubunji@seikatsusha.net) にてお申し込みください。



今回はぶんじ寮の食堂におじゃまします！

出張！マサーヨがきく



2024/04/05 (金)・13 (土) 13:00 ~ 18:00

どなたでも大歓迎！おとなも子どももお気軽に おしゃべりしにお立ち寄りください。

ご予約不要！

●ぶんじ寮●

国分寺市東元町 4-10-22 (自転車置き場あります)
国分寺駅から徒歩 15 分 / 西国分寺駅から徒歩 25 分

お問い合わせフォーム <https://kokubunji.seikatsusha.me/contact/>



生活者ネットこくぶんじ No.172 小坂まさ代の活動を紹介します

発行日：2024年3月1日 発行：国分寺・生活者ネットワーク 発行責任者：田中由紀

〒185-0024 国分寺市東町 3-33-16 西国分寺ハイツ 103 TEL: 042-328-1864

FAX: 042-328-1878 ☑ kokubunji@seikatsusha.net <https://kokubunji.seikatsusha.me>

小坂まさ代暮らしのエッセイ

「ヨシコさんの魔法の帽子」



毎年秋が深まってくると、毎日のようにヨシコさんが編んでくれたニットの帽子をかぶっている。

ヨシコさんとは子どもが通う保育園で出会った。第一印象は、さばさばしてて体じゅうから愛があふれ出ているような人。言葉を交わすようになるまでには、時間がかかったように記憶している。ヨシコさんの周りではいつも笑顔が絶えず、大人も子どもも冬になるとどんぐりのようなニット帽をかぶっていた。個性的な形なのに、不思議とかぶる人を選ばず、その人らしさを際立たせてくれる、そんな帽子。私もほしいなと思っていたのだが、ヨシコさんの帽子はお店では売っておらず、不定期に開催されるカフェのマルシェでだけ販売されていたので、なかなか手に入れることができなかった。

子育てと仕事に追われ、泣いたり笑ったりしながら日々が駆け足で過ぎていったある日、ヨシコさんが南の島に移住を決めたと聞いた。ああ、さびしくなると思い、でもヨシコさんらしいなと思った。

春がもうすぐそこまでできていた頃、引越してしまう前にどうしてもほしいと無理なお願いをした。忙しいだろうに嫌な顔ひとつせず、あっという間にシックなものからポップな色合いのものまで四つも編んで「どれがいいですか？」と見せてくれた。私は即座に「これ！これにします！」と言うと「それはイタリア製のちよっと変わった毛糸なんです。お目が高い！」とにっこり笑った。

それからほどなくしてヨシコさん一家は国分寺を離れ、会えなくなった。

この帽子には不思議な力があつた。かぶっていると、話しかけられるのだ。まちを歩いているときや電車待ちしていた駅のホーム、買い物途中の駅ビルなどで知人から「あら、マサーヨさん？」と声をかけられるのは日常茶飯事。

SNSの活動報告写真も帽子をかぶったままにしたところ、初めてお会いする方からも「もしかして、コサカマサーヨさんですか？」と話しかけられるようになった。多い日は1日に5人もの方に声をかけられたことがある。何度も会ったことのある知人から「今日はあの帽子をかぶっていないから、誰だかわからなかったわ」と冗談めかして言われたことも一度や二度ではない。ある会で一緒にした初対面の方から「もしかして、それはヨシコさんの帽子ですか？」と聞かれ、ビックリしたこともあった。聞けばヨシコさんのお友達で、「私ももってるんです」と教えてくれた。今では彼女とも友達だ。

8年前にヨシコさんに編んでもらった、世界でたったひとつの私だけの帽子。まちの人との距離を縮めてくれる、不思議な帽子を私は手放すことができない。魔法のかかったかけがえのない特別な帽子。今日はどんな人が話しかけてくれるだろうか。

小坂まさ代 国分寺の暮らし

第一子の妊娠中、壁一面作り付けの本棚のある古いアパートと出会い、縁もゆかりもなかった国分寺に転居。ふたりの娘に親として育てられつつ、PTA活動をしたり、公園や保育園でお話し会をしたり。2021夏、生活者ネットワークから市議補選に立候補し当選。2023春の市議選で再選。現在2期目。厚生文教委員会副委員長、新庁舎建設等特別委員会、議会運営委員会委員、湖南衛生組合議会議員。

生活者ネットワークの活動

「政治」は暮らしをよくする「道具」。子どものこと、緑や水のこと、誰もが安心して暮らせるためのしくみ、ゴミのこと…身近な暮らしにある「なぜ?」「こうなったらいいな」をみんなて話し合い市政・都政へ市民目線の提案をしています。現在、3人の市議会議員(高瀬おたる、小坂まさ代、松岡まり)と都議会議員(岩永やす代)とともに活動中。お話し会、調査活動、学習会など楽しい活動がたくさん! お気軽にのぞいてみてください。

「マサーヨの」

一般質問を見てみよう☆



<一般質問>市の仕事全体に関することや、地域の課題などについて、議員が1人1時間の時間の中で質問し、市長や教育長などが答えます。

学校に行けない、行かない子どもと家庭への支援について

令和5年第3回定例会 2023/09/05

一部抜粋・要約

マサーヨ

調布市では、多様な学びの場の提供や、年に複数回、保護者の集いなどの支援を行っており、NPOなど民間の団体を含め支援事業をまとめ、紹介をしているリーフレットを作成。これには「不安な気持ちを我慢して学校に通うのではなく、家で休んだり、自分に合った方法で学習したりすることも大切です」と書かれ、子どもの回復状態に合った支援先や相談窓口が分かりやすく明記されています。国分寺市では、このようなリーフレットはなく、当事者から「どこにもつながらず、とても不安だ」という声が以前より聞かれています。教育委員会にも届いているはずですが、適した支援につながるようこうしたリーフレットを作してほしい。

教育長

国分寺市でも、相談体制について作成したリーフレットや資料を公開しています。フリースクールなど民間の施設については、様々な団体が様々な背景を持っているということから、どのような団体があるかということについては一覧にして示すことはしていません。調布市のリーフレットは大変参考となります。今後、同様のものができると考えていきます。

マサーヨ

生活者ネットワークでは、子どもの学びを保障するために、全校に配置されたサポート教室の活用や保健室、図書室との連携など、子どもたちを各学校で受け止める体制づくりを進めることとあわせて、訪問型も含めた支援について検討を数年前より求めてきました。どうなっていますか?

教育長

トライルーム等の支援につながっていない児童・生徒に関しては、学校が継続して家庭への連絡を重ねるとともに、スクール・ソーシャルワーカーなどとなぎながら家庭訪問を行なっています。様々な工夫をしながら支援をしていきたいと思っています。

マサーヨ

他市の支援策を研究したり、市内で居場所や学習支援の活動をしている団体とも意見交換をしながら、国分寺市の子どもたちのためにできることを考え、一刻も早い新しい取組を求めます。

最後に、アンケートに寄せられた子どもたちの声を届けます。

「みんなと同じことをすることに違和感を感じています。もっと自由に勉強ができたと思います。」9歳 / 「何十人も同じペースで同じ内容を学ぶには無理があると感じ、行きたくなってしまった。」13歳 / 「学校の好きなところはどこですか」という問いに、「忘れてしまいました」と答えた13歳。

不登校になっても安心して別の学び方が選べる社会へ。そして、その先には、誰もがその子らしくいられるインクルーシブな(包括的な。すべての子どもを包み込むような)教室が実現することを強く願っています。